

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名 春山俊一 印

記

事業の名称	安全パトロール実施事業
事業実施前の状況	平成20年9月よりはじまり、小学校の登校日を中心に、一回一時間、一日四回のパトロールを実施してきた。パトロール隊員を中心に地域住民の安全に対する意識の高まりが感じられ、安心感を与えることができています。また、子供たちも積極的にあいさつをするようになった。
事業実施後の状況	3年目も引き続きパトロールを継続して実施できた。地域に定着してきた。
事業の効果	引き続き、地域住民の安全に対する意識をより高められたと考える。3年目に入り定着し、子供たちに継続して声かけ・あいさつすることにより、笑顔や会話が増え、より安心感を与えられたと考える。最近では小学生だけでなく、中高生や大人とも挨拶するようになるなど、地域のコミュニケーションを高めることにも役立っている。
今後の課題等	継続すること。そのためには、隊員を増員するだけでなく、運営を簡素化して役割分担することが必要。

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名

春山俊一

印

記

事業の名称	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況	自治会の防災防犯委員会が中心となり、毎年12月はじめの日曜日には防災訓練を開催し、年末には防火・防犯巡回パトロールを実施していたが、自治会予算の縮減により、予算的に厳しい状況にあった。
事業実施後の状況	12月の第一日曜日の総合防災訓練には348名の住民が参加し、6項目の訓練を行い、防災備品の確認をした。年末には2日間で延べ93名の参加者により、地域の防火・防災巡回パトロールを実施した。これらの活動にかかる諸費用に補助金を活用することができた。
事業の効果	総合防災訓練については、予算の心配なく開催することができた。年末の防火・防災パトロールにおいては、提灯・懐中電灯を購入することで、パトロールの効果を高め、隊員のモチベーションアップにつながったと考える。
今後の課題等	予算が手当てされることでこれらの防犯防災啓発事業を継続できる可能性が高まった。次なる課題としては、防災防犯委員会という地域の自主防災組織を運営する担い手の育成がある。

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名 春山俊一 印

記

事業の名称	防犯カメラ整備事業
事業実施前の状況	地域の防犯については、防犯防災委員会メンバーによる巡回パトロール、青色パトロール車による巡回パトロールが行われているが、以前より、空き巣の発生や不法投棄、違反車両の通行などの問題があった。
事業実施後の状況	地域住民による防犯活動を補完するため、地域内に防犯カメラを2台、ダミーカメラを2台設置した。
事業の効果	測定は難しいが、一定の防犯効果があったと考える。また、地域住民には安心感を与えられた。
今後の課題等	活用方法。現在のハードディスクでは3週間で画像が消えてしまう、3週間が適切かどうか。また、どういった場合にカメラの映像を見るか、警察との地域住民との間に認識のずれがある。より効果を高めるために、「防犯カメラ作動中」の看板を設置するなど、防犯カメラがあるということをもっとPRする必要がある。

H23年5月31日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名 春山俊一 印

記

事業の名称	伏尾台第一コミュニティセンター時計整備事業
事業実施前の状況	何年も前から時計が壊れていた。特にバスを待つ人には不便であった。
事業実施後の状況	伏尾台センターバス停からも見えやすい場所に太陽電池式電波時計が設置された。
事業の効果	正確な時刻がすぐに分かるようになり、特にバスを待つ人に好評である。
今後の課題等	当分は大丈夫と思うが、今後の維持管理。

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名 春山 俊一 印

記

事業の名称	AED管理事業
事業実施前の状況	2年前に設置され、一度も使用されたことがないが、メンテナンスが必要である。
事業実施後の状況	使用期限が切れたパッドを交換し、使用可能な状態を保った。
事業の効果	使用可能な状態を維持した。
今後の課題等	引き続きAED設置場所の周知。防災訓練等で使用方法の訓練をする。常に使用可能な状態にするよう管理すること。

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名 春山 俊一 印

### 記

事業の名称	子育て支援施設整備事業
事業実施前の状況	乳幼児を持つ母親が気軽に集まれる場所がなく、同じ環境にいる人たちとコミュニケーションが図れる場がなかった。
事業実施後の状況	伏尾台第一コミュニティセンターの一室を使用し、幼児向けの備品等を整備し、乳幼児を持つ母親が気軽に集まれる場所を作った。無人での運営はできないので、曜日・時間を決めて参加者を募り、ひと月に9～10回実施、毎回約5組の母子が参加しコミュニケーションを深めている。
事業の効果	一番の目的は、子育てのストレスが原因となる虐待の防止である。参加された方からはストレス軽減につながるなどと好評いただいております、少しずつではあるが、地域の子育て環境の改善に役立っていると考えています。
今後の課題等	施設のPR。さらに参加者を募ること。実施回数を増やすこと、それに伴い必要となるスタッフの補充。本当に支援が必要な人に来てもらうこと。池田市の子育て支援課との連携。

H23年5月31日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名  印

記

事業の名称	協議会事務所設置事業
事業実施前の状況	地域コミュニティ推進協議会の認知度が低い。会議をする際には、前もってコミセンの予約をしなければならず、気軽に集まりにくい状況にあった。
事業実施後の状況	伏尾台地域に入っすぐの目立つ場所に目立つ看板を設置した。気軽に集まれるようになった。
事業の効果	目立つ場所に事務所を設置し、また看板を目立つ色にすることで関心を持ってもらい、まずは協議会の存在を知る人が増えたと考える。 気軽に集まれる場所ができ、地域のコミュニケーションを高めることにつながった。
今後の課題等	協議会事務所のさらなる活用。事務所に設置された掲示板の活用。

H23 年 5 月 31 日

## 事業の評価書

池田市長 様

協議会名 伏尾台コミュニティ推進協議会

代表者名

春山俊一



記

事業の名称	街路灯強化事業
事業実施前の状況	地域の所々で夜道が暗いという意見があった。
事業実施後の状況	照度アップが必要な箇所を地域住民で手分けしてリストアップし、予算の範囲内で電球の取り換えを行った。
事業の効果	明るくなった箇所については防犯効果があると考えられ、地域の方には安心してもらうことにつながったと考える。また、照度アップが必要な箇所を選定・調整する作業を通して、さらに地域への理解が深まったと考える。
今後の課題等	次年度も実施予定。費用対効果を考え、本当に必要な箇所を地域住民で真剣に考えて進めていきたい。